



ネイティブ スナップショットの管理

- [HX Data Platform ネイティブ スナップショットの概要, 1 ページ](#)
- [HX Data Platform ネイティブ スナップショットの利点, 2 ページ](#)
- [ネイティブ スナップショットの考慮事項, 3 ページ](#)
- [ネイティブ スナップショットのベスト プラクティス, 5 ページ](#)
- [SENTINEL スナップショットについて, 6 ページ](#)
- [ネイティブ スナップショットのタイムゾーン, 7 ページ](#)
- [スナップショットの作成, 8 ページ](#)
- [スナップショットのスケジューリングの概要, 9 ページ](#)
- [スナップショットのスケジューリング, 10 ページ](#)
- [スケジュール済みスナップショットの頻度の設定, 11 ページ](#)
- [スナップショット スケジュールの削除, 11 ページ](#)
- [スナップショットの復元, 12 ページ](#)
- [スナップショットの削除, 13 ページ](#)

HX Data Platform ネイティブ スナップショットの概要

HX Data Platform ネイティブ スナップショットは、動作している VM のバージョン（状態）を保存するバックアップ機能です。VM をネイティブ スナップショットに戻すことができます。

HX Data Platform プラグインを使用して VM のネイティブ スナップショットを取得します。HX Data Platform ネイティブ スナップショット オプションには、ネイティブ スナップショットの作成、任意のネイティブ スナップショットへの復元、ネイティブ スナップショットの削除が含まれます。タイミング オプションには、毎時、日次、週次があり、15 分単位で設定できます。

ネイティブ スナップショットは VM の複製で、ネイティブ スナップショットが作成された時点での、すべての VM ディスク上のデータの状態で VM の電源の状態（オン、オフ、またはサスペン

ド)が含まれます。保存した状態へ復元できるようにするには、ネイティブスナップショットを取得して VM の現在の状態を保存します。

VM が電源オン、オフ、またはサスペンド状態のときに、ネイティブスナップショットを取得できます。VMware スナップショットの追加情報については、次のリンクから VMware のナレッジベース『Understanding virtual machine snapshots in VMware ESXi and ESX (1015180)』の記載を参照してください。

http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=1015180
http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=1015180

HX Data Platform ネイティブスナップショットの利点

HX Data Platform ネイティブスナップショットは、ネイティブ技術を使用します。ネイティブスナップショットには、次のような利点があります。

- **登録済み VM の復元。** VM が登録されている場合、電源のオン/オフに関係なく、ネイティブスナップショット (VM スナップショットと同一) を使用して、スナップショットが作成された時点の状態を復元できます。
- **高性能。** HX Data Platform ネイティブスナップショットのプロセスは、I/O オーバーヘッドが発生しないため高速です。
- **VM I/O に依存しない。** HX Data Platform ネイティブスナップショットの作成時間は、VM での I/O に依存しません。
- **VM のパフォーマンス。** HX Data Platform ネイティブスナップショットは、VM のパフォーマンスを低下させません。
- **クラッシュ コンシステント。** HX Data Platform のネイティブスナップショットはデフォルトでクラッシュ コンシステントである。I/O クラッシュ整合は、書き込み操作の正しい順序を維持するように定義されます。これにより、アプリケーションはクラッシュから正しく再起動できます。
- **アプリケーション コンシステント。** HX Data Platform CLI で `stcli vm snapshot` コマンドの `quiesce` オプションを選択して HX Data Platform ネイティブスナップショットをアプリケーションコンシステントにすることができます。ゲスト VM 内のアプリケーションは、ホスト VM で実行されているのと同様に透過的に実行されます。詳細については、『Cisco HX Data Platform Command Line Interface Reference CLI Reference』を参照してください。

ファイルシステムの休止は、物理または仮想コンピュータのディスク上のデータをバックアップに適した状態にするプロセスです。このプロセスには、オペレーティングシステムのメモリ内キャッシュから、ディスクまたはその他の高レベルのアプリケーション固有のタスクにバッファをフラッシュするなどのアクションが含まれる場合があります。

システムに休止エラーが表示された場合は、次のリンクから、VMware のナレッジベース『Troubleshooting Volume Shadow Copy (VSS) quiesce related issues (1007696)』の記載を参照してください。

http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?cmd=displayKC&docType=kc&docTypeID=DT_KB_1_1&externalId=1007696

- **ノード障害に強いスケジュール済みスナップショット。**スケジュール済みスナップショットは、ノードのシャットダウンが必要な管理操作（HM メンテナンス モードや HX オンライン アップグレードなど）に対して耐障害性があります。
スケジュール済みスナップショットは、マルチクラスタ環境では他の HX クラスタで発生する障害に対して耐障害性があります。
- **統一されたインターフェイス。**VMware snapshot manager™ を使用して、HX Data Platform プラグインを介して作成されたネイティブ スナップショットを管理できます。
- **個別にまたはグループで。**ネイティブ スナップショットは、VM レベル、VM フォルダ レベル、またはリソース プール レベルで取得できます。
- **詳細な進捗とエラー レポート。**これらのモニタリング タスクは、リソース プール、フォルダ、および VM レベルのスナップショットのタスク レベルで実行されます。
- **瞬時のスナップショットの削除。**スナップショットと統合の削除は常に瞬時に行われます。
- **パラレル バッチ スナップショット。**パラレル バッチ スナップショットでは、リソース プールまたはフォルダで最大 255 の VM がサポートされます。
- **VDI 導入サポート。**HX のスケジュール済みスナップショットは、VMware ネイティブ テクノロジーを使用する VDI 導入環境のデスクトップ VM でサポートされています。
- **回復可能な VM。**スナップショットが失敗しても、VM は常に回復可能です。
- **データストアアクセス。**スナップショット対象の VM がアクセス可能なマウントポイントにある限り、スナップショットは部分マウント/アクセス可能なデータストアに対して機能します。

ネイティブ スナップショットの考慮事項

スナップショット パラメータ

- **ネイティブ スナップショット：**HX Data Platform プラグインを使用して最初のネイティブ スナップショットを作成した後、vSphere Web クライアントでさらにスナップショットを作成する場合は、これらも同様にネイティブであると見なされます。ただし、HX Data Platform プラグインではなく vSphere Web クライアントを使用して最初のスナップショットを作成する場合は、vSphere Web クライアントのスナップショットは非ネイティブであると見なされます。
- **保存スナップショットの最大数：**VMware における VM ごとのスナップショットの上限は、現在、31 です。この上限は、VMware で作成されたスナップショット、HX Data Platform の SENTINEL スナップショット、HX Data Platform のネイティブ スナップショットを含んだ合計になります。

詳細については、次のリンクから VMware のナレッジベース『*Committing snapshots in vSphere when more than 32 levels of snapshots are present fails with the error: Too many levels of redo logs (1004545)*』を参照してください。 https://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=1004545

- **スケジュール済みスナップショット**：VM とそのリソース プールで、スナップショットが重複してスケジュールされないようにしてください。

VMs

- **削除された VM**：ネイティブ スナップショットのライフサイクルは、VM スナップショットと同様であり、仮想マシンに関連付けられています。VM が故意にまたは誤って削除されると、関連するすべてのスナップショットも削除されます。スナップショットには、削除された VM から回復するメカニズムはありません。VM の削除から保護するには、バックアップソリューションを使用します。
- **HX Data Platform ストレージ コントローラ VM**：ストレージ コントローラ VM のスナップショットはスケジュールできません。
- **HX Data Platform に属していない VM**：HX Data Platform データストアに存在しない VM では、スナップショットは失敗します。これは、VM レベル、VM フォルダ レベル、またはリソース プール レベルのスナップショットにあてはまります。スナップショットを作成するには、VM は HX Data Platform ストレージ クラスタ内の HX Data Platform データストアに存在する必要があります。
- **中断状態の VM**：最初のネイティブ スナップショット（SENTINEL スナップショット）を中断状態の VM から作成することはサポートされていません。

vCenter

- **準備ができているストレージ クラスタ**：ネイティブ スナップショットを許可するには、ストレージ クラスタが、十分なスペースがあり、オンラインであるなど、正常な状態である必要があります。データストアにアクセス可能である必要があります。VM が有効であり、移行状態（vMotion 実行中など）であってはなりません。
- **vMotion**：vMotion は、ネイティブ スナップショットのある VM でサポートされています。
Storage vMotion：Storage vMotion は、ネイティブ スナップショットのある VM ではサポートされていません。VM を別のデータストアに移動する必要がある場合は、Storage vMotion を実行する前にスナップショットを削除してください。

名前付け

- **名前の重複**：HX Data Platform vCenter で、VM やリソース プールの名前が重複しないようにしてください。そうしない場合、スナップショットが失敗します。これには、ネストされたリソース プール内の親および子、別の vCenter クラスタ内のリソース プールが対象となります。
- **名前に含まれる文字**：スナップショットを有効にするすべてのゲスト/ユーザ VM 名に特殊文字、ドット（.）、ドル記号（\$）、またはアクセント（'）を使用しないでください。

ディスクとデータストア

- **VM データストア**：ネイティブ スナップショットを作成する前に、すべての VM（VMDK）ディスクが同じデータストアにあることを確認します。これは HX スナップショットにすぐに適用され、また HX スケジュール済みスナップショットにも適用されます。

- **シック ディスク** : ソース ディスクがシック ディスクの場合、VM のディスクのスナップショットもシックになります。スナップショットに対応するためデータストアサイズを大きくしてください。
 - **仮想ディスク タイプ** : VMware は、さまざまな仮想ディスク バックアップ タイプをサポートします。最も一般的なタイプは FlatVer2 形式です。ネイティブ スナップショットはこの形式でサポートされています。
- その他の仮想ディスク形式には、Raw Device Mapping (RDM) 、SeSparse、VmfsSparse (Redlog 形式) などがあります。これらの形式の仮想ディスクが含まれている VM は、ネイティブ スナップショットではサポートされていません。

ログイン アクセス

- **SSH** : SSH がストレージ クラスタ内のすべてのノード上の ESX で有効になっていることを確認してください。

制限事項

オブジェクト	最大数
スナップショット	ストレージ クラスタあたり 30 VMware の上限は 31 です。1 つのスナップショットが SENTINEL で使用されます。
データ ストア	ストレージ クラスタあたり 8
VMs	ホストあたり 1024
電源をオンにした VM	ホストあたり 100
VM あたりの vDisk 数	VM あたり 60

ネイティブ スナップショットのベスト プラクティス



重要

VM のスナップショットを初めて作成する場合は、常に HX Data Platform のスナップショット機能を使用します。これで、後続のスナップショットがすべてネイティブ形式になります。

- 最初のスナップショットを作成するときには VMware のスナップショット機能を使用しないでください。
- VMware のスナップショットは redo ログ技術を使用するため、オリジナルの VM でパフォーマンスが低下する要因となる可能性があります。このパフォーマンスは、追加されたそれぞれのスナップショットでさらに低下します。

ネイティブ形式のスナップショットは、最初のネイティブスナップショットが作成された後の VM のパフォーマンスには影響しません。

redo ログ スナップショットを取る場合は、redo ログ スナップショットを保存する VMware ESXi ホストで、`/etc/vmware/config` ファイルを編集して、`snapshot.asyncConsolidate="TRUE"` を設定します。

- 最初のスナップショットを作成する前に、VM にすべての VMDK を追加します。

VMDK が VM に追加されると、追加の SENTINEL スナップショットが取得されます。それぞれの追加の SENTINEL は、追加スナップショット向けの領域を使用します。

たとえば、既存の VM があって新しく 2 つの VMDK を追加する場合、次のスナップショットのスケジュールで新しい SENTINEL が 1 つ作成されます。スナップショット スケジュールの保持数を確認して、十分なスナップショットスロットが使用可能であることを確認してください。1 つは新しい SENTINEL 向けで、1 つはスナップショット向けです。

- 多数のスナップショットを作成する際には、次の点を考慮します。
 - データ トラフィックの低いことが予想される場合は、スナップショットを同時にスケジュールします。
 - 単一のリソース プールまたは VM フォルダではなく、VM グループに複数のリソース プールまたは VM フォルダを使用します。そして、グループごとにスナップショットのスケジュールをずらします。

たとえば、`resourcePool1` のスナップショット スケジュールを 00 分、`resourcePool2` のスナップショット スケジュールを 15 分、`resourcePool3` のスナップショット スケジュールを 30 分にスケジュールします。
- ストレージクラスタ内の VM で vCenter が稼働している場合は、vCenter VM のネイティブスナップショットを作成しないでください。これは、VMware KB 「VMware VirtualCenter Server service fails due to a quiesced snapshot operation on the vCenter Server database virtual machine (2003674)」に関連しています。 https://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=2003674

SENTINEL スナップショットについて

[Snapshot Now] または [Scheduled Snapshot] を介して VM のスナップショットを初めて作成する場合、HX Data Platform プラグインは SENTINEL スナップショットと呼ばれるベースのスナップショットを作成します。SENTINEL スナップショットにより、後続のスナップショットがすべてネイティブ スナップショットであることが保証されます。

SENTINEL スナップショットは、復元された VM が、VMware の redo ログをベースにした仮想ディスクを保持することを防ぎます。redo ログをベースにした仮想ディスクが生じるのは、オリジナルのスナップショットが削除され、VM が 2 番目に古いスナップショットから復元される時です。

SENTINEL スナップショットは、復元可能なネイティブ スナップショットに追加されるものです。VMware ごとに使用可能なスナップショットには、合計で 31 という制限があり、SENTINEL スナップショットは、そのうちの 1 つを使用します。

SENTINEL スナップショットの使用

- SENTINEL スナップショットは削除しないでください。
- VM を、SENTINEL スナップショットに復元しないでください。

ネイティブ スナップショットのタイムゾーン

スナップショットのタイムスタンプとスケジュールの内容と表示に関するオブジェクトが 3 つあります。

- vSphere と vCenter は UTC 時間を使用します。
- vSphere Web クライアントはブラウザのタイムゾーンを使用します。
- HX Data Platform プラグイン、ストレージ クラスタ、ストレージ コントローラ VM は同じタイムゾーンを使用します。これはストレージクラスタ全体に適用されます。これらに使用されるタイムゾーンは設定可能です。デフォルトは UTC です。

スケジュールの設定にはストレージ コントローラ VM の時刻が使用されます。スナップショットの作成には vSphere UTC 時刻が使用されます。ログとタイムスタンプは、その表示方法に応じて異なります。

スケジュールの作成時に、スケジュール時刻が UTC に変換されます。HX Data Platform プラグインでスケジュールを表示すると、コントローラ VM の時刻が表示されます。作成されたスナップショットを vCenter イベント ログで表示すると、UTC 時刻が表示されます。

各オブジェクトに複数のタイムゾーンを適用することが可能であるため、HX Data Platform プラグインと vCenter ログに表示されるイベント メッセージとスケジュールが同期していないように見えることがあります。ただし、これは各表示オプションに割り当てられているタイムゾーンによる表面上の結果に過ぎません。同一タイムゾーンに変換すると、同一時刻に変換されます。たとえば、5:30pm PST、8:30PM EST、1:30AM UTC はすべて同じ時刻です。

[vSphere Scheduled Task] タブの場合、HX Data Platform プラグイン内で作成したスケジュール済みのスナップショットと同じ時間を表示し、ストレージ コントローラ VM を UTC に設定します。

ローカルのタイムゾーン設定に基づいて、スナップショットをスケジュールに沿って実行するには、ストレージクラスタ用のタイムゾーンを設定します。デフォルトでは、ストレージ コントローラ VM は HX Data Platform のインストール中に設定された UTC のタイムゾーンを使用します。

vSphere のスケジュールされたタスクのリスト。vSphere とストレージ コントローラ VM が同じタイムゾーンを使用していない場合、[vSphere Scheduled tasks] タブでは [HX Data Platform Schedule Snapshot] ダイアログでスケジュールした時間とは異なる時間が表示される場合があります。

vSphere のタスク完了リスト。時間単位のスナップショットを設定すると、スナップショット スケジュールは特定の開始時間と終了時間の間で実行されます。[vSphere Task] ウィンドウでは、ス

ケジュールされたスナップショットが時間単位で指定された終了時刻の後で完了したというステータスを表示することがあります。このメッセージは、vSphereがスナップショットのシーケンスの完了を確認したことを示しています。

指定された時間に、vSphereはスナップショットを作成する必要があるか、終了時間外であるかを調べ、スナップショットが不要であることを確認した上で、より大きなタスク（毎時間の一連のスナップショットの取得）が完了したことを示すステータス メッセージをポストします。

ストレージコントローラ VM で使用されるタイムゾーンの識別と設定

- 1 ストレージコントローラ VM のコマンドラインから、タイムゾーンの設定を参照します。

```
$ stcli services timezone show
```

- 2 ストレージクラスタのタイムゾーンを変更します。

```
$ stcli services timezone set --timezone timezone_code
```

タイムゾーンのコードに関する詳細については、

https://en.wikipedia.org/wiki/List_of_tz_database_time_zones などからタイムゾーンのリファレンスを参照してください。

スナップショットの作成

はじめる前に

HX ストレージクラスタ内の VM に関する redo ログ スナップショットを取る場合は、redo ログ スナップショットを保存する ESXi ホストの設定を編集します。この手順が完了していない場合は、VM がスナップショット統合中に機能しなくなる可能性があります。

redo ログスナップショットは、HX Data Platform のスナップショット機能ではなく、VMware のスナップショット機能を介して作成されるスナップショットです。

- 1 ESXi ホストのコマンドラインにログインします。
- 2 ファイル /etc/vmware/config を探して編集用に開きます。
- 3 snapshot.asyncConsolidate パラメータを TRUE に設定します。

```
snapshot.asyncConsolidate="TRUE"
```

-
- ステップ 1** vSphere Web クライアントナビゲータから、VM レベル、VM フォルダ レベル、またはリソース プール レベルを選択します。たとえば、[vCenter Inventory Lists] > [Virtual Machines] の順に選択し、vCenter 内での VM のリストを表示します。
- ステップ 2** ストレージクラスタ VM を選択し、[Actions] メニューを開きます。[VM information] ポートレット内で、VM を右クリックするか [Actions] メニューをクリックします。
- (注) ストレージクラスタのリソース プール上に HX Data Platform に属していないデータストアがないことを確認します。そうでない場合、スナップショットは失敗します。

- ステップ 3** [Cisco HX Data Platform] > [Snapshot Now] を選択して、[Snapshot] ダイアログボックスを表示します。
- ステップ 4** [snapshot] ダイアログボックスにスナップショットの名前を入力します。
- ステップ 5** スナップショットの説明を入力します。
- ステップ 6** [OK] をクリックして設定内容を確定します。
[Recent Tasks] タブでは、次のステータス メッセージが表示されます。

Create virtual machine native snapshot.

The first snapshot

スナップショットのスケジューリングの概要

スナップショット スケジュールをストレージ クラスタ オブジェクト（VM、VM フォルダ、リソース プール）に適用します。



- (注) vCenter クラスタを再登録すると、HX Data Platform のスナップショット スケジュールは失われます。この場合は、スナップショット スケジュールを再設定します。

スナップショットをスケジュールして、バックアップ要件を調整できます。たとえば、重要なデータについてはより頻繁にスナップショットを保持できます。障害発生時には、直近のスナップショットの復元か、カスタムのリアルタイム スナップショットを作成できます。重要度の低いデータに関しては、頻繁なスナップショットの作成やバックアップ コピーの保持は必要ありません。

スナップショットのスケジューリングで、バックアップに要するコストを制御できます。ストレージ クラスタの各 VM で、時間単位、日単位、または週単位でスナップショットをスケジュールできます。個別の VM の最大頻度は、1 時間に 1 度です。時間単位の設定は 15 分単位です。

たとえば、次の設定の場合、スナップショットは毎日取得されます。

VM 1 の時間単位のスナップショット、午後 10 時と午前 1 時の間の 15 分に実行。

VM 2 の時間単位のスナップショット、午後 8 時と午前 12 時の間の 30 分に実行。

VM 3 と 4 の時間単位のスナップショット、午後 6 時と午前 8 時の間の 45 分に実行。

VM 5 の日単位のスナップショット、午前 6 時に実行

これらのスナップショットは毎日取得されます。

午前 6 時 — VM 5

午前 6 時 45 分 — VM 3、VM 4

午前 7 時 45 分 — VM 3、VM 4

午後 8 時 30 分 — VM 2

午後 9 時 30 分 — VM 2

午後 10 時 15 分 — VM1

午後 10 時 30 分 — VM2

午後 11 時 15 分 — VM1

午後 11 時 30 分 — VM2

午前 12 時 15 分 — VM1

最後のスナップショットの終了時間が 00 分より前になるように注意してください。

24 を超える単位でスナップショットをスケジュールするには、開始時間を設定し、その後終了時間を 1 時間前に設定します。たとえば、時間が 15 分の設定で、午後 4 時を開始にして午後 3 時を終了にします。このタスクは、スナップショットを午後 4 時 14 分、午後 5 時 15 分 ... 午前 12 時 15 分、午前 1 時 15 分 ... 午後 2 時 15 分、午後 3 時 15 分に取得します。その後、24 時間のサイクルで再起動します。注：VM ごとの最大スナップショット数は 32 です。そのため、取得可能な時間単位のスナップショットは最大 32 時間です。

スケジュール スナップショットには、ストレージコントローラ VM の現在のタイムゾーン設定に基づく、スナップショットの設定時間が表示されます。そのため、スナップショットを午後 7 時 PST に設定し、ストレージコントローラ VM のタイムゾーンを EST に変更した場合、次にスケジューラのウィンドウを開くときには、設定時間は午後 10 時 EST に自動で更新されています。

スナップショットのスケジューリング

- ステップ 1** vSphere Web クライアント ナビゲータのホームページから、VM、VM フォルダ、またはリソース プール リストを選択します。
たとえば、[vCenter Inventory Lists] > [Virtual Machines] の順に選択し、vCenter 内での VM のリストを表示します。
- ステップ 2** ストレージクラスタ VM、VM フォルダ、またはリソース プールを選択し、[Actions] メニューを開きます。
オブジェクトを右クリックするか、または [Actions] メニューをクリックします。
- ステップ 3** [Actions] メニューから [Cisco HX Data Platform] > [Schedule Snapshot] を選択し、[Schedule Snapshot] ダイアログ ボックスを表示します。
- ステップ 4** スナップショットの頻度を選択します。
時間単位、日単位、週単位の頻度を示すボックスをクリックし、開始日、開始時刻、および期間を設定します。
- ステップ 5** 保持するスナップショットの数を設定します。
最大数に達すると、新しいスナップショットの作成に伴って古いスナップショットが削除されます。
- ステップ 6** 必要に応じて、既存のスケジュール済み項目を選択解除します。
以前のスケジュールが存在している場合は、項目を選択解除すると、今後のスケジュールからこれらの項目が削除されます。

ステップ 7 [OK] をクリックしてスケジュールを受け入れ、ダイアログを閉じます。

スケジュール済みスナップショットの頻度の設定

スナップショットを、毎時間（特定の時刻）、毎日（特定の時刻）または毎週（選択した曜日と時刻）作成します。

はじめる前に

VM、VM フォルダ、またはリソース プールの [Schedule Snapshot] ダイアログボックスを開きます。

-
- ステップ 1** [Schedule Snapshot] ダイアログボックスで [Enable Hourly Snapshot]、[Enable Daily Snapshot]、または [Enable Weekly Snapshot] のチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 2** ドロップダウン リストの [Start] をクリックし、開始時間を選択します。時間、15 分単位の分、午前または午後を選択します。
 - ステップ 3** スナップショット スケジュールを時間単位で設定するには、[Until] ドロップダウン リストをクリックして、終了時間を選択します。時間、15 分単位の分、午前または午後を選択します。時間で、[Start] と同じ値に分を設定します。
HX Data Platform プラグインは、開始時間と終了時間の間で毎時間ごとに VM のスナップショットを作成します。
 - ステップ 4** 対応するチェック ボックスをオンにして、スナップショットを取得する曜日 ([Days]) を指定します。
 - ステップ 5** [Retention] で、数値を入力するか矢印ボタンを使用して、スケジュールごとに保持するコピーの最大数を指定します。
-

スナップショット スケジュールの削除

-
- ステップ 1** vSphere Web クライアント ナビゲータのホームページから、VM、VM フォルダ、またはリソース プール リストを選択します。
たとえば、[vCenter Inventory Lists] > [Virtual Machines] の順に選択し、vCenter 内での VM のリストを表示します。
 - ステップ 2** ストレージ クラスタ VM、VM フォルダ、またはリソース プールを選択し、[Actions] メニューを開きます。
オブジェクトを右クリックするか、または [Actions] メニューをクリックします。

- ステップ 3** [Actions] メニューから [Cisco HX Data Platform] > [Schedule Snapshot] を選択し、[Schedule Snapshot] ダイアログ ボックスを表示します。
- ステップ 4** 今後不要なスケジュール オプションをオフにします。
- ステップ 5** [OK] をクリックして変更を受け入れ（変更には、以前に設定されていたスケジュールの削除などがあります）、ダイアログを終了します。
- ステップ 6** スケジュールが削除されたことを確認します。
ストレージクラスタ VM、VM フォルダ、またはリソース プールを選択します。vCenter のタブ、[Manage] > [Scheduled Tasks] をクリックします。これで、以前のスナップショット スケジュールが表示されなくなります。

スナップショットの復元

スナップショットを復元すると、VM がスナップショットに保存されている状態に戻ります。スナップショットの復元は、一度に 1 つの VM で実行します。これはリソース プール レベルまたは VM フォルダでは実行されません。スナップショットの復元は、HX Data Platform プラグインではなく vCenter Snapshot Manager で実行されます。

はじめる前に

VM のスナップショットが存在している必要があります。

- ステップ 1** vSphere Web クライアント ナビゲータのホームページから、VM レベル、VM フォルダ レベル、またはリソース プール レベルを選択します。たとえば、[vCenter Inventory Lists] > [Virtual Machines] の順に選択し、vCenter 内での VM のリストを表示します。
- ステップ 2** ストレージクラスタ VM を選択し、[Actions] メニューを開きます。[VM information] ポートレット内で、VM を右クリックするか [Actions] メニューをクリックします。
- ステップ 3** [Snapshots] > [Manage Snapshots] を選択し、vSphere Snapshot Manager を開きます。
- ステップ 4** 選択した VM のスナップショット階層から、復元するスナップショットを選択します。
- ステップ 5** [Revert to] > [Yes] > [Close] の順にクリックします。
復元された VM は VM リストに追加され、電源がオフになります。場合によっては、VM スナップショットから復元した VM がすでに電源オンになっていることがあります。
- ステップ 6** 復元した VM を選択し、電源をオンにします。

スナップショットの削除

スナップショットの削除は、HX Data Platform プラグインではなく vSphere インターフェイスで管理されます。

-
- ステップ 1** vSphere Web クライアントナビゲータから、[VMs and Templates]>[vcenter_server]>[Snapshots]>[datacenter]>[vm] の順序で選択します。
- ステップ 2** [vm] を右クリックして、[Snapshots]>[Manage Snapshots] を選択します。
- ステップ 3** スナップショットを選択し、[Delete] をクリックします。
- (注) [Delete All] オプションのみを使用して、SENTINEL スナップショットを削除します。SENTINEL スナップショットは個別に削除しないでください。
-

